

私たちの広場

No. **313**

2010年6月21日発行

特
集

参議院選挙



連
載

フィンランドのシティズンシップ教育(第2回)

絵
本

「福澤諭吉」(第2回)

明るい選挙推進参院選全国大会報告



明るい選挙推進協会は、平成22年6月7日、東京都渋谷区の津田ホールで明るい選挙推進参院選全国大会を開催し、全国から約400人の明推協委員等が参加しました。

大会は、かながわ選挙カレッジ実習生（二期生）の矢木聖那さんの司会で始まりました。

まず、（財）明るい選挙推進協会の佐々木会長が開会の挨拶に立ち「国政選挙の投票率は上向き傾向にあるが、前回の参院選でも六〇％に達しておらず、特に二〇歳代は三〇％台と極めて低い状態にあることを認識して、ぜひ多くの有権者が今回の投票に参加するよう呼びかけてほしい」と激励されました。

田口尚文・総務省選挙部長の来賓挨拶の後、与良正男・毎日新聞社論説副委員長の「有権者が主役の政治」と題した講演が行われました。

教育現場との連携を

与良さんは、鳩山内閣退陣にまつわる政治情勢についてコメントされた後、若者の政治意識について次のように話されました。

「若い人たちが政治に顔を出さない現状は大きな問題といえます。これからの日本は超高齢化社会を迎えようとしています。これを支える若い人の投票率が低いいため、若者向けの施策・政策が出てきません。今の若者は政治を話題にすることを『はずかしい』と思う傾向があります。そもそも投票の仕方を知らない人も多い。情報の入手方法もインターネットからの断片的なものが多く、新聞はおろかテレビも見なくなっています。

これを打開するには、教育現場との連携が



必要ではないでしょうか。今までの学校教育では、議会や選挙、投票などの制度や意義については教えていますが、選挙や投票の具体的な教育はまったくなされていません。そもそも政治の話は避ける傾向が強かったのです。これからは、教育現場での実践に即した教育が必要となってきます。ぜひ、その取組みを強めていただきたい。」

私たちの取組み（啓発活動報告）

休憩をはさんで、次の五団体から啓発活動の報告が行われました。

○品川区明るい選挙推進協議会（石井恒男・会長）

会員（一八二人）はすべて推進委員を兼ねており、地区ごとに活動計画を練り実践しています。特色ある活動として、投票立会人を務めた新成人に呼びかけて「品川区長と立会人経験者との懇談会」や成人式での模擬投票を二回ずつ実施してきました。今後は新設した「若年層啓発推進室」を中心に、若者グループの立上げを目指していきたい。

○リンカーン・フォーラム（内田豊・代表代行・事務局長）

公開討論会を通じて政治家を選ぶというルールを根づかせる実践活動とネットワークづくりを行っており、「国民の政治参加の促進」と「投票率の向上」を目指しています。今ま



で一九〇〇回（平成八年）の公開討論会を開催してきました。参院選での公開討論会は一〇年から行っており、今回も四七選挙区、六九会場での実施を予定しています。今までの実績分析から、初めて公開討論会を行った選挙区では、投票率が一〇％上がるという結果が出ています。それはなぜか、公開討論会がおもしろいからです。皆さんもぜひ公開討論会の開催に取り組んでいただきたい。（私たちの広場二九〇号特集参照）

○模擬選挙推進ネットワーク（林 大介・事務局長）

未成年者が選挙投票日に実際の選挙の立候補者や政党に投票を行う「未成年模擬選挙」に取り組んでいます。選挙を体験することにより、政治への興味や関心が深まり、将来的な投票率の向上や家族・地域での投票率アップの効果が期待されています。今回の選挙では、全国一〇〇校、一万人の

未成年者が投票することを目指しており、投票日以降に全国の投票結果の公表を予定しています。（二九九号優良活動表彰参照）

○日本版ボートマッチ開発ワーキンググループ（上神 貴佳・高知大学准教授）

政策課題の争点を政党ごとに比較し、それに基づいて投票することは、一般の有権者

にとって大変難しいことです。各党の公約を集めて読み、何が争点になっているのか理解しなければならず、それぞれの争点ごとに立場の違いをみつける必要があるからです。それを手助けするのがボートマッチ。利用者は、インターネット上で質問に答えるだけで、各政党との立場の一致・不一致の度合いがわかるようになっていきます。今回の参院選にあわせて、読売新聞のサイト上に「日本版ボートマッチ」として提供しています。（二九七号特集参照）

○学生団体 iNote（原田 謙介・代表）

インターネットなどで知り合った大学生によって設立され「投票することをつこいことにする」を目標に、二〇代にターゲットを絞り、啓発活動に取り組んでいます。活動内容は、事前登録した有権者に投票日にメールをして投票を促すメールプロジェクト（参院選では協力会社の割引クーポンを提供）、政治家と若者の交流を目指した居酒屋 iNote などを行ってきました。また新しく、会のHPに、「今日のめいすいくん」と題して、人気のめいすいくんと若者の写真を掲載し、投票を呼びかけています。（三一二号優良活動表彰参照）

参院選でも活躍する「めいすいくん」五体が登場しての出陣式が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、参院選が明るく行われることを期して、下記の決議が採択されました。

決議

わが国は内外ともに多難なときを迎えており、政治が果たすべき役割は、極めて大きい。従って、近々行われる第二二回参議院議員通常選挙の意義はまことに重大である。

近年、全国的な国政選挙の投票率は下げ止まっているものの、前回の参議院選挙においては、なお四割以上の有権者が棄権しており、特に若年層の投票率は著しく低い。一方、選挙違反は減少傾向にあるものの未だ後を絶たず、看過できない状況にある。

ここに本大会は、来るべき参議院選挙が有権者の総参加のもと公明且つ適正に行われることを期して、次のことを決議する。

一 政党・候補者等に対しては、選挙のルールを守った、きれいな選挙を行うこと、また、マニフェストなどを通じて選挙の争点を明確にし、政策本位の選挙を行うことを要望する。

二 有権者に対しては、この度の選挙が国の政治の行方を決める重大な意義を持つものであることを十分に認識して、全員が投票に参加するよう、とりわけ若年層に対しては、一票の大切さを訴え、棄権することのないよう呼びかける。

三 投票にあたっては、政党・候補者等の政策を見極め、候補者の人柄、識見を吟味して、自らの自由な意思によって自覚ある投票をするよう呼びかける。

四 期日前投票、郵便等投票など各種の投票方法について更なる周知を行う。

平成二十二年六月七日

明るい選挙推進参院選全国大会